

科目名	薬と疾病要説			ナンバリング	561090	授業形態	講義
対象学年	6	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	1 単位
代表教員	林正彦	担当教員	田島裕久				

授業の概要	薬物治療の基本的な知識を復習すると共に、合併症治療に投与された薬物との代表的な相互作用についての知識を身につけ、患者に対して的確な情報が提供できるようになる事を目的とする。						
到達目標	食物・嗜好品との薬物相互作用、中枢疾患、感染症、悪性腫瘍、消火機器疾患、感覚器、免疫疾患、炎症アレルギー、循環器疾患、代謝性疾、患腎疾患の症例と治療薬の使われ方を説明できる。さらに、合併症治療薬との薬物相互作用の代表的な例を挙げて説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	1 講義内では教科書の内容補足として、プリントを配布する。講義内容のまとめ方の参考にすること。 2 講義内容を復習できるよう演習問題を添付する。演習問題は、講義や自習で学習したことがどのような形で問われるか、どのように考えたらよいか、という問題解決力を養うためのものであるから、必ず自分で解答すること。						
ディプロマポリシーとの関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
		1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。					
	○	2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
		3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
		4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
	○	5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
各疾患において用いられる代表的な治療薬を挙げ、薬理作用、作用機序、副作用について説明できる。	症状や進行程度から適切な治療薬を選択すると共に、合併症発症で使用される治療薬との薬物相互作用について説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○	○				90%
小テスト・授業内レポート	○	○	○				10%
宿題・授業外レポート	○	○					加点はしない。
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	講義中もしくは講義前に、前回講義内容に関する小テストを行う。テスト結果は採点・解説し、学習支援システムmanabにて開示する。解答用紙は、要請があればいつでも開示できるよう準備している。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	食物・嗜好品との薬物相互作用	食物・嗜好品(サプリメント等)の代表的な薬物相互作用について説明できる。	SBO:E2 (担当:田島)
	第2回	薬物相互作用	代表的な薬物相互作用について説明できる。	SBO:E2 (担当:田島)
	第3回	中枢神経系に作用する薬物と疾病	てんかん、パーキンソン病、認知症の発症機序を示し、治療薬の薬理作用、作用機序、主な副作用について解説する。	SBO:E2-(1)-③-7,9,10 SBO:ア-C7-③-1 (担当:田島)
	第4回	中枢神経系に作用する薬物と疾病	気分障害、統合失調症の発症機序を示し、治療薬の薬理作用、作用機序、主な副作用について解説する。	SBO:E2-(1)-③-4,5 SBO:ア-C7-③-1 (担当:田島)
	第5回	中枢神経系に作用する薬物と疾病	催眠障害、不安、偏頭痛、麻薬性鎮痛薬の発症機序を示し、治療薬の薬理作用、作用機序、主な副作用について解説する。	SBO:E2-(1)-③-2,6,11 SBO:ア-C7-③-1 (担当:田島)
	第6回	感染症、悪性腫瘍に作用する薬物と疾病	感染症、悪性腫瘍について説明し、治療薬の薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。	SBOE2-(7)-①～⑨ (担当:田島)
	第7回	消化器系に作用する薬物と疾病	健胃消化薬、催吐剤、制吐剤、胃炎・消化性潰瘍について説明し、治療薬の薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。	SBO:E2-(4)-②-1,2,4,8 (担当:田島)
	第8回	まとめ演習		
	第9回	感覚器および移植に作用する薬物と疾病	眼疾患、耳鼻咽喉疾患、臓器移植について説明し、治療薬の薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。	SBO:E2-(6)-①～② SBO:E2-(2)-②-9 (担当:林)
	第10回	炎症、アレルギー、呼吸器系に作用する薬物と疾病	炎症、アレルギー疾患・免疫疾患について説明し、治療薬の薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。	SBO:E2-(1)、(2)、(4) (担当:林)
	第11回	循環器系に作用する薬物と疾病	高血圧症、心不全の発症機序や症状を示し、治療薬の薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。	SBO:E2-(3)-①-2,4,5 (担当:林)
	第12回	循環器系に作用する薬物と疾病	虚血性心疾患、不整脈の発症機序や症状を示し、治療薬の薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。	SBO:E2-(3)-①-1,3 (担当:林)
	第13回	血液・造血器に作用する薬物と疾患	凝固系や貧血に関わる因子について説明し、治療薬の薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。	SBO:E2-(3)-②-1～4 (担当:林)
	第14回	代謝性疾患に作用する薬物と疾病 SBO:C13, SBO:C14 (担当:林)	代謝性疾患(糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症)について説明し、治療薬の薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。	SBO:E2-(5)-① (担当:林)
	第15回	腎疾患、泌尿生殖器系に作用する薬物と疾病	腎疾患(腎不全、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎)、泌尿生殖器疾患(前立腺肥大、異常分娩、子宮内膜症、尿路結石、頻尿)について説明し、治療薬の薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。	SBO:E2-(3)-③ (担当:林)
	試験	講義毎の小テスト、まとめ演習、期末試験を実施する。小テストは10%、まとめ演習(20%)、期末試験は70%ととして評価する。期末試験は全範囲を対象に実施する。配布している演習問題ならびに講義プリントを参照すること。60点未満の不合格者は、再度復習して再試験に備えること。再試験は全範囲を対象とし、それ以後の試験は実施しない。		
授業の進め方		講義とそれに対する質疑応答とする。講義では教科書の内容補足として、プリントを配布するので講義内容のまとめ方の参考にすること。講義内容の復習のため演習問題を添付する。		
授業外学習の指示		講義を聴いただけで理解したつもりにならないこと。配付資料、特に治療薬マップや作用機序は、配付資料を見ないで書けるようになること。添付している演習問題をその日のうちに解くこと。出来なかったところはその日のうちに調べる。継続して学習することが重要であり、見ただけで理解したつもりになら無いようにすること。 (授業外学習時間: 毎週 120 分)		

教科書	講義で使用するプリント資料は、「manab@」からPDFファイルとしてアップロードしている。
参考書	パートナー薬理学 改訂第2版(重信弘毅、石井邦雄、南江道)6,300円 ISBN978-4-524-40297-7 C3047 「疾病と病態生理」豊島 聰監修、南江堂、6,000円、ISBN 978-4-524-40274-8 「薬物治療学」第4版 吉尾 隆他編集、南山堂、8,800円、ISBN 978-4-525-72051-3
参考URLなど	
その他	【基本的資質:⑨薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。アドバンスト:17% 準備教育:0%, 大学独自:0%】